

CITY OF YOKOHAMA

山下心頭再開発 市民検討会

第2回検討会 資料

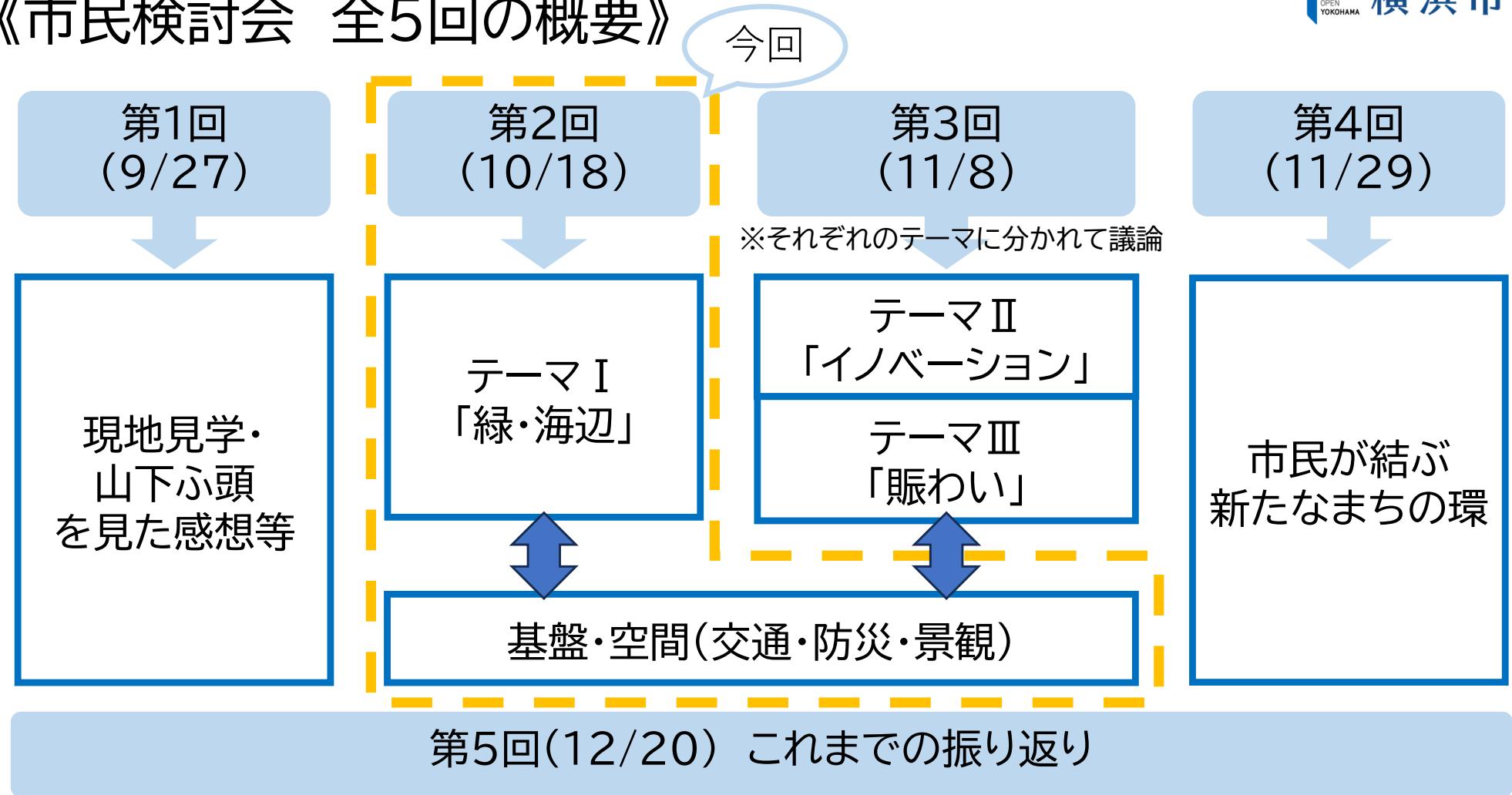
令和7年10月18日（土）



《第2回》プログラム

時間	行程
9:00～	開会
	「答申を踏まえた基本的な方向性」の説明 等 ・ テーマⅠ「緑・海辺」 ・ 基盤・空間(交通・防災・景観)
9:20～11:25	グループワーク、途中休憩(10分)
	休憩(5分)
11:30～	グループ発表
12:00	事務連絡・閉会

《市民検討会 全5回の概要》



市民意見募集の概要

市民意見募集は以下の期間・方法によって行いました

意見募集の概要

募集期間	令和7年7月1日(火)～9月9日(火)
応募方法	・インターネット入力フォーム ・リーフレット付属はがき
寄せられた意見数	2,610件
広報	・プレゼンテーションスペース ・みなとみらい線各駅デジタルサイネージ ・LINE、X、Instagram、Facebook 等



プレゼンテーションスペース



デジタルサイネージ

意見募集の設問

「基本的な方向性」が示す新たなまちの将来像について、ご意見のある項目を選択いただき、項目に対するご意見（自由記述）を募集しました

テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間

取組の考え方1
多くの人々の関心を惹く緑・海辺空間

取組の考え方2
新たな発見や感動をもたらす緑・海辺空間

テーマⅡ 持続可能なまちを支える 明日へのイノベーション

取組の考え方1
多様な人材・技術の交流による
絶え間ないイノベーションの創出

取組の考え方2
時代の最先端の技術が実装される
世界を代表するグリーン社会の実現

テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと 広がる新たな賑わい

市民が結ぶ
新たなまちの環

取組の考え方1
旅の目的地となる
賑わいの拠点の形成

取組の考え方2
市域全体の活性化に
つながるまちづくり

「緑・海辺のまち」を支えるインフラ構築と空間整備

取組の考え方1
まちをつなぎ、賑わいが
広がる交通機能の強化

取組の考え方2
誰もが安心して滞在できる、
災害に強いまちづくり

取組の考え方3
横浜の新たな象徴となる
魅力的な象徴デザイン

テーマI 「緑・海辺」に関する市民の声



277件のご意見を、GPT-4.1を活用して複数の要旨にまとめると以下のとおりです

- ① 海辺の自然や浜辺、水遊びなど、水に触れられるエリアや施設を充実させてほしい。安心して子どもや家族が楽しめる水辺空間・親水施設が欲しい。
- ② 緑豊かで開放的な公園や自然に触れられる空間を整備し、市民が憩い・楽しめる場所にしてほしい。商業施設や高層ビルは最小限に抑えて、自然環境の保全や景観にも配慮してほしい。
- ③ 脱炭素や気候変動、生物多様性への配慮など、環境に優しいまちづくりを進めてほしい。
- ④ 市民が気軽に集い、子ども・高齢者・障がい者など多様な人が安心して訪れ交流できる場にしてほしい。
- ⑤ 山下公園や周辺エリアとの連携・一体的な緑地形成や開かれた動線設計を重視してほしい。
- ⑥ 自然を活かした防災・減災機能や災害対応力を備えた空間づくりをしてほしい。
- ⑦ 観光施設中心の開発よりも、市民生活を重視したオープンスペースや自然の場を優先してほしい。

「交通機能の強化」に関する市民の声



221件のご意見を、GPT-4.1を活用して複数の要旨にまとめると以下のとおりです

- ①山下ふ頭へのアクセス向上や回遊性強化のため、鉄道延伸、LRTやロープウェイ、水上交通など多様な公共交通機関の導入・整備を進めてほしい。
- ②周辺道路整備や駐車場の充実により、自動車や観光バスでも快適にアクセスできるようにしてほしい。
- ③バリアフリー化や多言語案内など、多様な利用者に配慮した交通施設や案内の整備を進めてほしい。
- ④山下ふ頭開発では歩行者や自転車、自動運転車両など新モビリティの動線確保・安全な共存・回遊性向上を図ってほしい。
- ⑤交通アクセス計画では周辺の渋滞や混雑への影響を十分考慮し、観光・生活利用の動線を分けるなど、持続可能な交通環境を目指してほしい。
- ⑥バス運転手の慢性的な人員不足を受けて、長距離・路線バス導入の現実性や具体策を慎重に検討してほしい。

「災害に強いまち」に関する市民の声



157件のご意見を、GPT-4.1を活用して複数の要旨にまとめると以下のとおりです

- ① 地震や津波などの災害リスクに対応した防災拠点の整備や避難場所の確保、災害時の備蓄・物流機能の強化を行うようにしてほしい。
- ② 津波や液状化など山下ふ頭特有の自然災害リスクについて、地盤やインフラ強化、防潮堤や津波避難タワーなど、土地の特性に合った具体的な対策を講じてほしい。
- ③ 防災マニュアルや多言語避難案内の作成、防災訓練・体験施設、情報発信の強化など、全ての利用者が災害時に迅速に行動できる環境を整備してほしい。
- ④ 港の特性を活かし、災害時には物資・救援の輸送や搬入を円滑に行い、病院船の受け入れやヘリポートの設置など、陸・海・空が連携した総合的な支援体制を築いてほしい。
- ⑤ 災害時の港湾や海上交通の安全を確保する具体策を実施してほしい。

「景観デザイン」に関する市民の声



85件のご意見を、GPT-4.1を活用して複数の要旨にまとめると以下のとおりです

- ①周辺と調和した美しい景観や横浜らしさを守りつつ、新たなランドマークや象徴的な景観を創出してほしい。
- ②自然環境や緑、海辺の保全を重視した開発にしてほしい。
- ③高層の建物の乱立や景観を損なう建物の建設は避け、建物の高さ制限やデザイン統一に配慮してほしい。
- ④歴史や文化、伝統を尊重し都市の美しさや街並みの統一感を大切にした開発にしてほしい。

《第2回》グループワーク

世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」それはどんな空間？

①あなたがイメージする
世界に誇れる、魅せる
「緑と海辺」とは？

- ・テーマⅠに対する感想、意見
- ・現地見学や将来像のイメージとテーマⅠとの共通点や違い

1 多くの人々の関心を惹く、
緑・海辺空間
都市に彩りを与える緑・海辺
他に類を見ない象徴的な緑 etc

2 新たな発見や感動を
もたらす緑・海辺空間
ウェルビーイングなオープンスペース
立地特性を生かした非日常感 etc

②「緑と海辺」のイメージを
グループで整理・共有

③誰が・どのように
利用する？

利用する人の目線で考える、この空間の意味とあり方

利用する立場からその空間の意義、
あり方の理由や根拠を考える

来街ターゲットの想像

近隣住民
通勤ワーカー
ビジネス客
観光客 etc

どこからアクセスする？
どのように利用する？

④必要な基盤や
機能は？

「インフラ整備と空間整備」の考え方に対する感想、意見

交通
防災
景観

その他
(インフラや空間に関わるソフト対策等)

万遍なく意見を述べた上で
グループとして重要だと考える
視点を中心に議論